

第2学年○組技術・家庭科学習指導案

指導者 押野 弘子

1 題材名 よりよい住まいと住み方を考えよう

2 題材の目標

- 住生活について関心をもち、家族がくらしやすい住まいについて意欲的に考えようとしている。 (生活や技術への関心・意欲・態度)
- 家族がくらしやすい住まいにするための室内環境や住まい方の工夫を考えることができる。 (生活を工夫し創造する能力)
- 住まいを安全で快適にするために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けることができる。 (生活の技能)
- 安全で快適に住むために必要な知識を身に付け、生活と住まいのかかわりについて理解することができる。 (生活や技術についての知識・理解)

3 題材における評価規準 <指導内容旧A(4) 新C(2)ア,イ>

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
住まいと住み方に ついて関心をも ち、くらしやすい 住まいについて意 欲的に考えようと している。	家族がくらしやす い住まいにするた めの室内環境や住 まい方の工夫を考 えている。	家族の構成や特徴 に応じた安全で快 適な室内環境の整 備ができる。	家族がくらしやすい 住まいにするための 知識を身に付けてい る。

4 指導計画 (5時間)

第1次 心地よく住むために・・・・・・・ 1時間

第2次 家族がくらしやすい住まいの工夫・・ 4時間 (本時は第4時)

時間	小題材 主な学習内容	ねらい 学習活動における具体的評価規準	評価方法
1	○家族がくらし やすい住まい を考えよう。	○モデル家族を設定して、心地よく住むための 部屋の工夫を考える。 知一心地よく住むための工夫や条件が分かる。	ワークシート 図
3	○家族が集まり たくなる部屋 の工夫を考え よう。	○部屋や室内環境の整備を考え、「家族が集ま りたくなる部屋」を作成する。 関一準備物を活用し、くらしやすい住まいを意 欲的に考えようとしている。 工一家族が集まりたくなる工夫を考えている。 技一家族の構成や特徴等の条件を考慮して、室 内環境の整備ができる。	観察 作品
1	○家族が集まり たくなる部屋 を紹介しよ う。 (本時)	○発表し合うことにより、家族がくらしやすい 住まいの工夫について考える。 工一発表を聞いて、「くらしやすい住まいの工夫 について考えている。」	観察 発表 ワークシート

5 本時の学習指導

ア 本時の目標

自分が考えた部屋の工夫について発表したり、友達の発表を聞いたりして家族がくらしやすい住まいの工夫について考えることができる。

イ 展開

学習活動及び内容	指導上の留意点（○）、評価（評） 言語活動に対する支援の手立て（△）
1 前時までの作業の進度と本時のめあてを確認する。 自分が考えた部屋の工夫について、わかりやすく紹介しよう。	○前時の学習を振り返らせ、モデル家族を設定し、部屋の空間を考えた作品が出来上がっているかどうかを確認する。
2 グループで「家族が集まりたくなる部屋」を紹介する。 【種類】 <ul style="list-style-type: none">・リビング（洋風）・居間（和風）・ダイニングキッチン	○4人グループで、自分が考えたモデル家族とそこに集まりたくなる工夫を発表し、交流させる。 △発表の仕方と聞き方のルールを確認して始め、メモを取ったり、相互評価やアドバイスをさせたりしてよりよい発表になるように工夫させる。 △グループをまわり、発表が進まないときはキーワードを与える。また早く終わってしまったときは、質問をして発表が充実できるようにする。
3 代表者の発表を聞く。	○幼児や老人がいるなど設定や部屋に特徴が見られる4人の代表を選んでおき、各自の工夫と比較しやすいようにする。
4 くらしやすい住まいにするためには、どんな条件が大切かを話し合う。	〈評〉 「くらしやすい住まい」にするための工夫について考えている。 (工夫創造、発表・ワークシート) △家族が集まりたくなる部屋や、居心地がよくてくらしやすい住まいの条件について意見交換をしながら、既習学習を振り返らせる。
5 さらに工夫できることを追加 ・修正する。	○友達の作品や意見を参考にして、自分の作品に生かせることを加えたり、修正したりさせる。 △自分の生活でどんな工夫ができるかという視点でジャーナルを書かせる。
6 振り返り（ジャーナル）を書く。	○自分の生活で実践できることを考えて休日に取り組み、報告することを伝える。
7 本時のまとめをする。	